

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第5回 環境部会	
日時	平成22年12月27日(月) 午前9時30分から午前12時10分	
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室18	
出席者	作業部会員 (敬称略)	井出 靖、志村雅由、山口智子、江口光雄、越 洋子、小山 明、清水久美子、堀池政史
	関係課員	環境衛生試験所、環境政策課、廃棄物対策課、生活環境課、清掃センター、衛生センター、農政課、農業土木課、森林整備課、観光課、河川課、公園緑地課、農業委員会事務局、上下水道局総務課、配水管理課、サービスセンター、浄水課、業務課、下水道建設課、下水道施設課、企画課(事務局)

会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第4回 環境部会 会議概要について
- 4 市民フォーラム21 第4回 環境部会 ワークショップまとめ(案)について
政策2-1 豊かな自然環境の保全と創造 資料1
- 5 第四次長野市総合計画 後期基本計画大綱(案)の項目について 資料2
- 6 第四次長野市総合計画 後期基本計画 大綱まとめ(案)について
(1)第四次長野市総合計画 後期基本計画の体系(たたき台)【環境分野】 資料3
(2)政策2-1 豊かな自然環境の保全と創造 資料4
(3)政策2-2 資源が循環する環境共生都市の実現 資料5
(4)政策2-3 良好な生活環境の形成 資料6
- 7 今後の予定について
- 8 閉会

会議の概要(主な決定事項、質疑等)

- 4 ワークショップのまとめについて
「政策2-1 豊かな自然環境の保全と創造」をテーマにワークショップで検討した意見を資料1のとおりまとめることで確認した。(第4回 環境部会 11月26日開催)
- 5 第四次長野市総合計画 後期基本計画大綱(案)の項目について
資料のとおりとすることで確認した。
- 6 第四次長野市総合計画 後期基本計画 大綱まとめ(案)について
(1)第四次長野市総合計画 後期基本計画の体系(たたき台)【環境分野】 資料3
後期基本計画の体系(たたき台)【環境分野】については、(2)から(4)まで、協議した上で、事務局からの提案を一部修正の上、まとめることとした。
(2)政策2-1 豊かな自然環境の保全と創造 資料4

総合計画は最上位計画となるので、項目の中に個別計画である環境基本計画の見直しを入れてはどうか。

現在、第二次環境基本計画を策定中であるが、上位計画である総合計画と連動性を持ちながら策定していく。第二次環境基本計画は、総合計画の後期基本計画と開始年度が同じであるため、項目の中に見直しを入れるのは難しい。

総合計画と環境基本計画が乖離しないよう、内容のチェックをし、検証する必要があるのではないかと考える。環境基本計画に関する情報を提供してほしい。何らかの形で整合性に関する意見は述べさせてほしい。

環境基本計画の策定段階においては、上位計画である総合計画と整合性を保つという姿勢で取り組んでいる。環境基本計画については、別に環境審議会があり、審議を行っている。審議の状況については、報告することは可能である。なお、環境審議会の議事録は公開している。

この作業部会は、総合計画を策定するのが役割であり、個別計画まで審議するとすると、この部会の役割が変わってしまう。

- ➡ 整合性を保つのは、大前提であるので、部会長と副部会長に環境基本計画に関する情報を提供してもらい、対応については、部会長・副部会長の判断に一任する。

基本施策「良好な自然環境の確保」の施策について、前期の2施策を統合となっているが、前期基本計画と同じく「身近な」と「貴重な」で分けたほうが良い。

積極的に市民に利用してほしい自然と立ち入ってほしくない自然もあるから、2つで良いのではないか。

里山に貴重種が多い。身近なものが貴重になりつつあり、明確に分けられなくなってきている。

主な取組の中で、身近なものと貴重なものを整理していければ良いのではないか。

施策としては統合し、取組の中で身近なものと貴重なものを整理する。

(3) 政策2-2 資源が循環する環境共生都市の実現

資料5

「ごみの発生抑制と再資源化の促進」という施策名称について、再資源化というと、素材の資源化となるので、使えるものは長く使うという再使用という視点を施策の名称に入れ、「ごみの発生抑制と再使用・再資源化の促進」としてはどうか。

発生抑制の中に再使用という視点も含まれる。

発生抑制という言葉では再使用のイメージが沸かない。

- ➡ 「再使用」を付け加え、施策名称は、「ごみの発生抑制と再使用・再資源化の促進」とする。

(4) 政策2-3 良好な生活環境の形成

資料6

13ページの行 18、23~25など、今回のワークショップでは、長野らしさを意識した意見が多かったが、右側のまとめが地域性を意識した文言がほとんど出てきていない。

長野らしさを文言として表現するのは難しい。

行 23~25のまとめの「豊かな自然をいかした緑化の整備」について、緑化の整備というのは文言としておかしい。

「地域の特性をいかした緑の整備」としたらどうか。

長野らしいというのは、周囲に豊かな自然があることではないか。

- ➡ 行 23~25のまとめは、「周囲の豊かな自然をいかした緑の整備」とする。

13ページの行 13~18のまとめについて、中心市街地の緑の質的向上と適正な維持管理という文言を入れたほうが良い。

➡ 「中心市街地の緑の質的向上と適正な維持管理」を付け加える。

施策「潤いある親水空間の創造」の右側のまとめにおいて、「親水空間の利用促進」というまとめがあるが、親水空間の整備（創造）の部分がイメージできない。

親水空間の整備そのものについては、「生態系など自然に配慮した河川・水路の整備」としてまとめた。また、ワークショップにおいて、「立派な親水空間があるが、あまり利用されていない」という意見があったため、「親水空間の利用促進」ということでまとめている。

➡ 了解した。

13 ページの行 19 について、生態系の連続性の確保ということが目的であれば、施策「自然環境の保全と生物多様性の確保」に入れたほうが良いのではないか。公園や街路樹の整備に重きを置くのであるならば、生態系の連続性を確保するための街路樹や公園の整備として変えたほうが良いのではないか。

公園・街路樹の整備に対するものなので、こちらの施策の取組としたほうが良い。

緑化という一括りではなく、より具体的に公園・街路樹の整備としたほうが良い。

➡ 右側のまとめを「生態系の連続性を確保する公園・街路樹の整備」とする。

（体系の確認）

資料3

基本施策「総合的・計画的な環境対策の推進」の中で、他部署との連携の強化、情報のデータベース化など、実施体制の確立という施策を1つ増やしてはどうか。

庁内体制の話であれば、総合計画には馴染まない。

庁内体制については、環境調和都市推進委員会という副市長を筆頭とした横断的な体制がある。

総合計画は、市民に対する計画である。市役所内部で連携を取るのは大前提であるため、総合計画の中に文言として入れる必要はないのではないか。

効率的・効果的な行政については、行政経営分野の「効率的な行政の推進」、「成果を重視した行政運営」という中で盛り込まれている。個々の事業の中で、連携はしている。

➡ 基本施策「総合的・計画的な環境対策の推進」の施策については、事務局案のとおりとする。

基本施策「良好な自然環境の確保」の名称を「自然環境の保全と生物多様性の確保」としてはどうか。「自然環境の保全と生物多様性の確保」は大きな枠組であるため、より具体的なものとなる施策を考える。主な取組を見直し、前期基本計画とは違う分け方で、施策を2つぐらいに分けてはどうか。

生物多様性の確保のためには、自然環境の保全の対策が必要となる。分けることは、前期基本計画よりも更に困難になる。統合の方向性で良いのではないか。

「良好な自然環境の確保」は、政策2-3「良好な生活環境の形成」に対する言葉である。政策、基本施策の違いはあるものの、前期基本計画では、良好な生活環境、それに対する良好な自然環境ということで括った。

事務局案のとおりでよいのではないか。

➡ 事務局案のとおり、施策は1つとし、名称は「自然環境の保全と生物多様性の確保」とする。